

# 共生社会システム学会ニュースレター

The Association for *Kyosei* Studies

HP <http://kyosei.digi2.jp/>

2015年4月13日発行 第12号

## 目 次

1. 共生社会システム学会2015年度大会が開催されます。 .....	1
2. 個別報告の募集について .....	2
3. 長野会員（前会長）への名誉会員授与 .....	3
4. 10周年記念事業の進捗 .....	3
5. 『共生社会システム研究』第10号への投稿募集 .....	3
6. この間の諸会議の開催 .....	4
7. 運営委員会事務局だより .....	5
役員名簿（2014年8月～2016年7月） .....	6

## 1. 共生社会システム学会 2015 年度大会が開催されます。

### **1. 日程及び会場**

開催日: 2015年7月12日(日)、早稲田大学 持続型食・農・バイオ研究所との共催

場所: 早稲田大学・早稲田キャンパス(3号館301号室)

#### 大会スケジュール(仮)

- 9:00～ 受付開始
- 9:30～11:30 個別報告
- 11:30～13:25 理事会・総会
- 13:30～13:40 大会開会・開催校挨拶・会長挨拶
- 13:40～17:30 大会シンポジウム
- 16:10～17:30 全体討論
- 18:00～20:00 懇親会

### **2. 大会シンポジウム**

#### **「地方創生」の新たな担い手と地域ガバナンス**

—「持続可能性」および「共生」の視点からみた〈農〉の現場—

座長解題 「地方創生」および〈農〉の位置づけと分析枠組み (13:40～14:00)

(農政調査委員会客員研究員、早稲田大学招聘研究員 矢口芳生)

### 1. 農山村地域における日本型社会的企業の意義と政策課題 (14:00~14:40)

(早稲田大学人間科学学術院教授 柏 雅之)

### 2. 障がい者の農業就労をめぐる社会学的分析視角 (14:40~15:20)

(早稲田大学人間科学学術院教授 武田尚子)

### 3. 農業を支える外国人労働力と監理団体による地域マネジメント (15:20~16:00)

(早稲田大学政治経済学術院名誉教授、同大学持続型食・農・バイオ研究所顧問 堀口健治)

### 全体討論 (16:10~17:30)

日本経済は、長期のデフレ下にある。この状況の打開のために、政府は「アベノミクス」に躍起だ。しかし、好結果は出ていない。一步間違えれば、巨大な環境リスク、巨額の財政赤字、一層の社会的経済的格差の拡大という「アベノリスク」になりかねない。

不調の要因は需要縮小のスパイラルから抜け出せないからだ。グローバル企業・大企業、投資家等には好結果でも、中小企業、地方の中心的産業である地場産業・農業等への恩恵はほとんどない。そこで政府は「地方創生」を促すが、一過性の政策・施策では地域は創生しない。

また、「成長戦略」に位置づけた「農業」は、農協等の一体的な改革＝規制緩和政策を進めている。狙いは、国内の新たな投資先の一つに農業を位置づけ、農外企業等の自由な参入を促し、勝ち組の「所得倍増」にある。これでは農業生産地は確保できても、農村社会は維持できない。

いま地方各地域の持続可能性が問われている。シンポジウムでは、〈農〉および〈農〉の現場の新たな動きに着目する。シンポジウムの「**地方創生**」および〈農〉の**位置づけと分析枠組み**」は次のとおりである。

経済活動には様々あるが、シンポジウムでは、中心と周辺、都市と地方、グローバル経済圏とローカル経済圏、グローバル・大企業と中小企業・地場産業・社会的企業・ボランティア等、対峙される後者に焦点を当てる。後者のなかでも、とくに「地方創生」の最前線にあり、市場主義だけでは解けない〈農〉および〈農〉の現場を対象に、新しい地域の担い手の登場とともに新しい地域ガバナンスが模索されている実態を明らかにする。

分析および考察は、「持続可能性」および「共生」の視点もしくは両者の融合の視点から、重層的・多面的に行う。これにより、地域および組織主体の活力度・地域力、地域の課題・方向性を明らかにする。ここから制度・政策のあり方にも言及し、地方各地の「地域創生」への示唆を得る。

本シンポジウムにおける研究対象並びに研究課題の絞込み、研究および実態調査・点検の方法、これらを踏まえた分析と考察は、他の学会とは異なる共生社会システム学会としての〈一定の見識〉を示すことになる。3 報告の研究の対象・課題と視点は次のとおり。

〈**第 1 報告: 柏**〉は、過疎化の進む中山間地域における日本型ともいえる社会的企業の登場・展開・見直しを扱う。「協働・協創・協生」の実態を、3 つの持続可能性(環境的・経済的・社会的持続可能性)に着目して、共生のあり方を分析・考察する。

〈**第 2 報告: 武田**〉は、大都市圏外周部における障がい者の農業就労の展開と意義・役割を扱う。未開拓分野である「農・福」連携等について、経済的・社会的持続可能性(健全な経済・社会の地域循環)に着目しつつ、社会学的分析視角から考察する。

〈**第 3 報告: 堀口**〉は、労働集約的畑作平坦地域を中心に展開する外国人労働力問題と「外国人技能実習制度」のあり方を扱う。とくに社会的持続可能性(健全な社会・風土・文化の地域循環)に着目して、共生のあり方を分析・考察する。

以上 3 報告では、いずれも多様な主体が連携・共生する地域マネジメントが重要な鍵となっている。また、こうした問題に焦点を当てることにより、今後のわが国の地域・農村ガバナンスのあり方にも含意を得ることができよう。

---

## 2. 2015 年度大会個別報告の募集について

2015年度大会（7月12日（日）、早稲田大学で開催）での個別報告を募集いたします。報告希望者は以下の要領に従って、学会運営委員会事務局までお申し込み下さい。

（1）筆頭報告者は報告申込時に本学会員であること。会員でない方は至急入会手続きを行ってください。

（2）個別報告の申込みに当たっては、**a)個別報告申請書**と**b)報告要旨**の両方をご提出下さい。

a) **個別報告申請書**は、A4の用紙1枚に以下のことを記載して下さい。

- ①氏名：
- ②報告表題：
- ③分野：
- ④所属機関：
- ⑤連絡先住所：
- ⑥連絡先電話番号：
- ⑦FAX番号（もしあれば）：
- ⑧e-mailアドレス（もしあれば）：

\*分野はプログラム編成時の参考とさせていただきます。

b) **報告要旨**は、学会ホームページに掲載の様式見本を参考にして、A4用紙1枚をご提出下さい。（様式見本 → <http://kyosei.digi2.jp/abstract.pdf>）

\*報告要旨は、学会報告を念頭に、可能な範囲で、仮説（問題設定）、研究方法、結論をきちんと書き分けてください。

（3）報告時間（予定）は報告20分、質疑応答10分です。  
（報告者の人数によって増減する可能性もあります。）

（4）提出方法：

学会運営委員会事務局まで、**a)個別報告申請書**と**b)報告要旨**をEメールに添付してお送りください。送り先メールアドレスは、[inamura@afsp.jp](mailto:inamura@afsp.jp)です。

CD-Rもしくはフロッピーなどの電子媒体に原稿ファイルを入れていただき、ご郵送いただいても結構です。その場合の宛先は下記の通りです。

〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-3-3 木下ビル4F 農林統計出版株式会社内  
「共生社会システム学会」運営委員会事務局 宛  
\*なお封筒の表面に「個別報告申込」と朱書きして下さい。）

（5）提出締切日： 2015年5月29日（金）（消印有効）

---

## 3. 2015 年度大会参加費の支払い方法

2015年度大会の参加費については、これまでの学会参加費の支払い方法とは異なり、参加ご予約の会員の皆様に、大会開催に先駆け事前に学会の指定口座にお振込み頂きます。

早稲田大学キャンパス内では現金の授受が禁止されているための処置である旨ご了承ください。

例年4月に会員皆様宛に学会事務局から学会費請求用紙を郵送しておりますが、今年度は学会費に加え、2015年度大会参加費ならびに懇親会費を含めた振込用紙を同封いたします。

会員の皆様にはお手数をお掛けいたしますが、事情ご賢察の上、大会参加費・懇親会費の事前振込に対してご協力頂きますようお願い申し上げます。なお事前振込なしで当日参加なされた会員に対しては受付で振込用紙を手渡し、後日お振り込み頂く処置を講ずる予定です。また、事前振込みなしで懇親会にご参加なされた会員に対しては、懇親会場入り口にて参加費を徴収いたします。

---

#### 4. 長野会員（前会長）への名誉会員授与

2015年3月14日に開催されました、臨時理事会・第3回運営委員会にて、長野敬前会長に名誉会員を授与することが承認されました。

なお、名誉会員の授与について申し合わせを定めることとし、「会長、副会長など、本学会にとくに功績があったと理事会が認める者」に名誉会員を授与することが承認されました。

以上の事項の詳細については、7月12日開催の2015年度学会の総会にて報告いたします。

---

#### 5. 学会設立10周年記念事業の進捗

来年の学会創立10周年に向けて、「学会設立10周年記念事業」実行委員会（実行委員長：矢口副会長）を中心にして記念事業の準備を積極的に進めております。10周年記念事業の「目玉」となる記念書籍に関しては、以下のような「位置づけ」に基づいて執筆者を選定したところです。

- ① 持続可能性理念、共生理念、実践的共生の現状等に関する10年間の総括と到達点を踏まえて、新たな課題を明らかにする
  - ② 次代を担う研究者・若者・NGO活動家等へのメッセージとなる内容にする（現実的課題に答え、方向性を探る）
  - ③ 研究者以外の会員、その他の人びとに「わかりやすい」内容にする（結局多くの人びとにわかってもらえなければ意義は半減する）
- 

#### 6. 『共生社会システム研究』第10巻への投稿募集

『共生社会システム研究』第10巻への投稿原稿を募集しますので、ふるって投稿下さい。締切日は11月2日（月）です。締切日を超えた投稿については、原則、次巻（第11巻）掲載の原稿として取り扱いますので、あらかじめご承知おき下さい。

投稿規程、執筆要領をよく読んで原稿を作成して下さい。なお、今回より英文要旨に加えて和文要旨を作成していただきます。これは当学会のウェブサイトでご覧できるようにする予定ですので、あらかじめご承知おき下さい。

原稿の送り先：

〒184-8588 東京都小金井市中町2-24-16 東京農工大学工学部電気電子工学科

『共生社会システム研究』編集委員長岡野一郎 E-mail: i-okano@cc.tuat.ac.jp

※ 前回のニューズレター11号で「第9号」と誤記されておりました。お詫びして訂正します。

---

## 7. 諸会議の開催

2015年大会ならびに来年の学会10周年に向けて、以下のとおり臨時理事会・運営委員会・10周年記念事業実行委員会等を開催して精力的に事業活動に取り組んでいます。

### ○第2回「学会設立10周年記念事業」実行委員会

- ・日時 2014年12月7日 13時～15時
- ・場所 東京農工大学府中キャンパス2号館320号室
- ・出席者 矢口委員長、榎本、岡野、桑原、澤、武田、千年、福田、吉田、稲村
- ・議題
  1. 記念書籍編集代表者会議（記念誌担当実行委員会）の報告並びに提案等
  2. 会員拡大担当実行委員会の報告並びに提案等
  3. 2016年度大会の企画について
  4. 2015年度早稲田大会について

### ○第2回運営委員会

- ・日時：2014年12月20日（土） 14:00～17:15
- ・場所：東京農工大学府中キャンパス2号館3階302
- ・出席者：尾関、木村、矢口、武田、柏、稲村、千年、吉田
- ・議題
  1. 「学会設立10周年記念事業実行委員会」からの報告
  2. 早稲田大学大会について
  3. 編集委員会からの報告
  4. 名誉会員授与の条件に関する申し合わせ
  5. 長野敬前会長の名誉会員推薦の手続きについて

### ○第3回「学会設立10周年記念事業」実行委員会

- ・日時 2015年3月2日
- ・場所 農工大2号館320号室
- ・出席者 矢口、桑原、岡野、武田、澤、千年、榎本、吉田、稲村、柏（敬称略）
- ・議題
  1. 2015年度早稲田大会について
  2. 記念書籍編集責任者会議からの報告及び審議
  3. 会員拡大について
  4. 2016年度大会について

### 第3回運営委員会・臨時理事会

- ・日時 2015年3月14日（土曜日） 13時30分～17時
- ・場所 東京農工大学農学部2号館320号室
- ・出席者 尾関、鹿島、亀山、木村、武田、千年、古沢、矢口、吉田、稲村
- ・委任状 秋山、朝岡、新井、荒木、上野、柏、河路、北野、島崎、清水、中尾  
役員26名 出席8名、委任状12名で理事会成立
- ・議題
  1. 長野敬前会長の名誉会員の承認について
  2. 名誉会員授与の条件に関する申し合わせについて
  3. 運営委員会のオブザーバーについて

議題に応じて運営委員会にオブザーバーの参加を求めることが承認された。

具体的なオブザーバーの人は会長と運営委員長が協議して決める

4. これまでの本年度の活動報告について
5. 『共生社会システム研究』第9号の編集について
6. 2015年度大会について
7. 2016年度10周年記念大会について
8. ウェブサイト充実化

作成中のホームページが紹介され大卒が承認された。今後細部を詰めて早急に公開する。

---

## 8. 運営委員会事務局だより

昨年8月から役員新体制になり、尾関会長、木村副会長、古沢副会長、矢口副会長のもと、積極的に事業活動を進めております。現在、取り組んでいる主な事業は、2015年度大会（早稲田大学）と「学会設立10周年記念事業」の2つです。2015年度大会（早稲田大学）の企画については、今回のニュースレターで報告いたしましたが、「学会設立10周年記念事業」については、紙面の制約上、記念出版事業について、若干、紹介するにとどまりました。

「学会設立10周年記念事業」は、矢口実行委員長のもと、①記念書籍出版と②会員拡大に向けての活動が展開されています。①では編集責任者会議を組織し、岡野事務局長を中心に出版書籍の位置づけ、書籍構成、執筆スケジュール等について企画・調整を進めています。②では、榎本会員と吉田会員を中心に会員呼び掛けチラシの作成や学会ホームページの改善等に取り組んでいます。「学会設立10周年記念事業」の活動については、次号以降のニュースレターでお知らせする予定です。

なお学会ホームページについては、<http://kyosei.digi2.jp/>でご確認ください。

最後に以下、改めて2015年度大会について記させていただきます。

7月12日に早稲田大学で、共生社会システム学会2015年度大会が、早稲田大学 持続型食・農・バイオ研究所との共催で開催されます。午前中に個別報告、午後にシンポジウムが行われます。シンポジウムのテーマは、“「地方創生」の新たな担い手と地域ガバナンス―「持続可能性」および「共生」の視点からみた〈農〉の現場―”です。

会員皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

---

## 会費納入のお願い

まだ2013年度会費を納入していない会員におかれましては、至急会費を納入していただきますようお願い申し上げます。会費は、一般会員6,000円、学生会員3,000円、賛助会員20,000円となっております。よろしくお願い申し上げます。

---

共生社会システム学会ニュースレター 第12号 2015年4月13日発行

編集・発行 共生社会システム学会運営委員会事務局

連絡先 〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8

東京農工大学農学研究院 千年篤研究室 気付

TEL: 042-367-5687 E-Mail: chitose@cc.tuat.ac.jp

郵便振替 00130-6-372850 (加入者名) 共生社会システム学会